

達人 Professional vol.34

2024年4月

Contents

- 巻頭言 創設90周年 全員参加の組織を目指して
- 特集1 能登半島地震被災地支援 活動報告
- 特集2 2024年度事業計画・抱負 職能部門別 今年のトピック
- 第75期新卒新入職員紹介
- 慈愛会フィロソフィ/在宅医療リレーエッセー
- 慈愛会のプロフェッショナルたち/人事情報



いつる今村病院



錦江湾プログラム研修医の皆さん

新しい仲間を迎えた慈愛会各病院施設での記念撮影を一挙ご紹介！

第75期新卒新入職員



今村総合病院



谷山病院



奄美病院



愛と結の街



笹貴訪問看護ステーション愛の街



徳之島病院

医療の原点は、慈愛にあり。

母が子を慈しみ育てる心、愛を持って病める人の苦しみを除く。
慈しみ、愛する心、その素朴で純粋な気持ちが慈愛会の医療理念です。

患者様を肉親と思い医療の達人(プロフェッショナル)を目指します。
同時に全職員の物心両面の幸せを追求します。

公益財団法人慈愛会 施設一覧

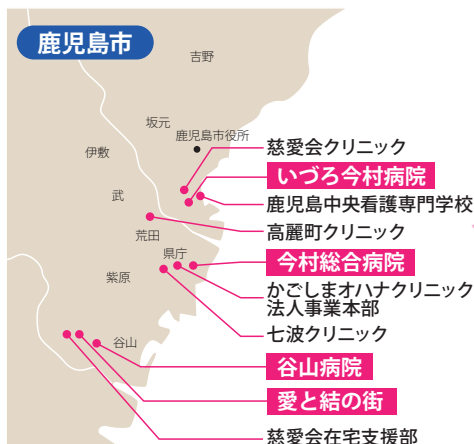
鹿児島市を中心とした鹿児島二次医療圏（推計人口 約66万人）¹⁾



今村総合病院 428床
急性期一般病床 330床
回復期リハ病床 50床
精神病床 48床



いづろ今村病院 115床
急性期一般病床 35床
地域包括ケア病床 58床
緩和ケア病床 22床



慈愛会垂水サテライトクリニック
2024年5月開院予定（P7参照）



鹿児島中央看護専門学校

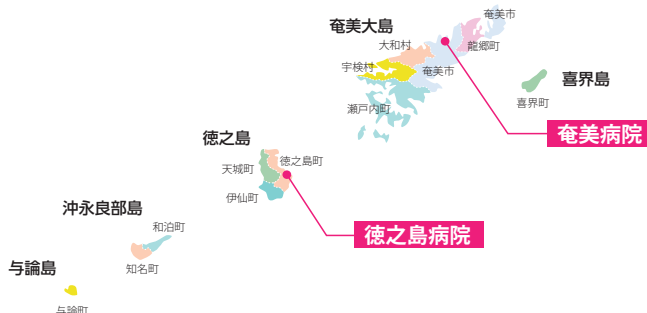


介護老人保健施設 愛と結の街
（入所定員 100床）



谷山病院
（精神病床 392床）

奄美二次医療圏（推計人口 約10万人）¹⁾



総病床数 1,567床

職員数 2,450名
（2024年3月1日現在）



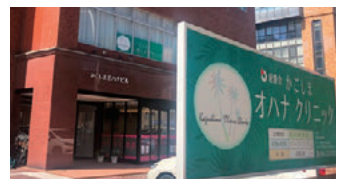
慈愛会クリニック



高麗町クリニック



七波クリニック



かごしまオハナクリニック



奄美病院
（精神病床 326床）



徳之島病院
（精神病床 206床）

創設90周年 全員参加の組織を目指して —「全職員の物心両面の幸せ」と共に—

公益財団法人慈愛会 理事長 今村 英仁



慈愛会は今年度、創設以来 90 周年を迎えます。

80 周年の記念会では坂本すが日本看護協会会長（当時）をお呼びして県民公開講座を行いました。また、今村総合病院の建築計画の公表と慈愛会フィロソフィの策定を行いました。

それから 10 年が経過しましたが、この間にも当法人は堅実に成長を続けてきました。ただし、最後の 4 年間は 100 年に 1 度と言われる新型コロナ禍による天災がその成長に大きな影響を及ぼす結果となりました。

10 年前に「鹿児島県民のための保健・医療・介護・福祉・教育複合体を目指す」と宣言しましたが、当法人は、1) 一般医療と精神科医療、2) 急性期医療から在宅医療までの包括的な医療に加え、兄弟法人である社会福祉法人慈愛会と共に介護・福祉さらに保育領域までサービスを提供してきました。法人の充実を図ってきた中で襲った新型コロナ禍により、平時に加えて、有事におけるサービス提供まで行うことを余儀なくされました。現場のスタッフは本当に粉骨砕身、患者さんやご利用者のために頑張ってくれました。そのスタッフに十分に報いることが出来なかったことに忸怩たる思いでいっぱいです。

90 周年を迎える今年度からの 10 年間は、今回の災害を踏まえて、改めて、有事にもびくともしない法人を確立すべきと考えます。そしてその中で最も大事なことは、やはり「ヒト・モノ・カネ・データ」の中の「ヒト」です。理念で掲げる「全職員の物心両面の幸せを目指す」をお題目ではなく、実現することが結果、目標達成の近道と考えます。

当法人に所属する 2,000 人のスタッフ一人一人にもっと目を向けて、みんなが活躍出来る環境づくり、若手もベテランも双方が多様化する価値観を尊重しながら活躍できる風土づくり、一人一人の活躍を公平に評価できる仕組みづくりとそれに合わせた報酬体系、そしてそれを実現できる教育システム、これらの取り組みを行う結果として、全員参加で医療提供を行う組織作りを目指していきます。

決して平穏無事な海路ではなく、荒波に揉まれる難海路となるのは間違いありません。その荒波を乗り越える羅針盤が慈愛会フィロソフィであり、現在検討委員会の皆さんに熱心にバージョンアップしてもらっています。この羅針盤の下、全員一丸となってこの難海路を進んでいきましょう。

能登半島地震 被災地支援活動報告

石川県を中心に甚大な被害をもたらした2024年1月1日の能登半島地震。被災者支援のために、慈愛会スタッフも相次ぎ現地入りしました。1月19日から5日間、日本医師会災害医療チーム（JMAT）鹿児島第1陣として今村総合病院が派遣した4名をはじめ、支援活動にあたった皆さんの活動報告を写真とともにお伝えします（肩書は執筆当時。次号で続報予定）。



ここ鹿児島県においても、大規模災害がいつ起こらないとも限りません。「天災は忘れた頃にやってくる」と言われます。今回、専門性を発揮し支援にあたった慈愛会スタッフの貴重な体験、活動で得た教訓を共有することで、災害にどう備えるべきか、慈愛会のBCP（事業継続計画）について、あらためて考えるきっかけになることを願っています。

法人事業本部より報告 【義援金について】

全病院施設に協力を呼び掛けた慈愛会の災害義援金は総額1,943,895円が集まりました。2月28日に、日本医師会及び全国老人保健施設協会（それぞれ、全国から支援金を受け付け被災地域へ配賦）に振り込みましたので、ご報告します。

日本医師会災害医療チーム（JMAT）

今村総合病院 救急・総合内科部長 医師 大塚 暢

今回の我々の活動は巡回診療の引き継ぎ業務の開始と発熱外来の立ち上げでしたが、これは現地で決まった活動内容でした。被災地での活動内容は派遣された時期によって変わるため、災害から復興までの経時的な各段階を具体的に思い描いてそれぞれに対応できるように準備する必要があること、全体の計画を達成するための本部と現地との調整作業が重要であることを思い知りました。さらに鹿児島県で地震や大噴火が起きた場合は、我々自身が被災から復興までの過程をたどることになり、この作業を長期間行うことを自覚しました。

今回は福島県の医療チームも石川の被災地入りしているのを見かけましたが、自分たちの被災体験を他の被災地で生かし、逆に災害支援の体験を自分たちが被災したときに活用できるという災害医療の双方向性に気付きました。つまり積極的に被災地を支援することが、自分たちの被災への備えになっているということです。現在あの被災者を支えて救援しているのは、災害が起こる何年も前から被害を想定、準備してきた人達なのだと思います。

誰でも災害で潰された家々を見れば助けたい気持ちがわくと思いますが、同時に何もできない虚しさも感じます。今、「あの人達を助けたい」と思う気持ちは、これから起こる災害で発生する被災者やわれわれ自身を助けることにつながります。恐れることがあるとすれば、災害に居合わせて「やっぱり何もできなかった」と悔やむことです。自分たちの被災への備えにもつながる支援活動。そういうふうには、災害医療に参加するモチベーションを高められないだろうかと考えます。



輪島市門前保健センターに設置した発熱外来での診療



JMAT 鹿児島本部を立ち上げた輪島市門前支所の前で（左から平川副看護師長、中村副看護師長、筆者、福留総務課長）



派遣初日に赴いた石川県庁災害対策本部



輪島市門前保健センターで慈恵医大DMAT、岐阜DMATと合流し、発熱外来設置の打ち合わせ（左から2人めが筆者）



穴水町健康集会所に於ける調査（右端が筆者）

今村総合病院 集中治療室（ICU）副看護師長 中村 倫文

この度、JMATの鹿児島チームの第1陣に今村総合病院から参加しました。派遣された七尾調整支部を拠点に、穴水町、輪島市門前町で活動を展開しました。被害の大きい地域で、倒壊家屋が多く、非常に胸が痛みました。派遣時は発災から3週間が経過しており、電気は使えましたが、未だ断水が続いている状況でした。

私たちチームの主なミッションは、急性期から慢性期に移行するフェーズの中で、①門前町の地域医療を支援すること、②そのために他の支援チームを受け入れるための災害本部を設置することの2つでした。私は主に①の支援について関わりました。

被災地では発熱患者が増加傾向であり、JMATで発熱診療を担うことが喫緊の課題とされました。そこで保健センターのスペースを利用させていただき、他県の災害派遣医療チーム（DMAT）と協力し、臨時的発熱外来を設置し、実際に診療開始できました。受診した男の子の「明日から学校」と話す笑顔が印象的で、戻りつつある日常もあることを知りました。

活動期間の3日間は本当にあっという間でした。より有効な活動にできるように、日頃から事前準備と計画、心構えを忘れずに物心の備えをしていくことが改めて大事だと感じました。

能登半島地震の発災を受け、鹿児島で地震が起きた場合、救急看護認定看護師として何ができるかを考える中で、今回、JMATの活動の機会をいただきました。

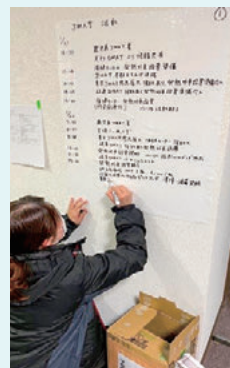
病院支援と聞いて現地へ派遣されましたが、実際には避難所利用者の健康観察や状況把握、JMATの支部立ち上げの指令でした。派遣された輪島市門前町では、2つある診療所のうち1つしか機能しておらず、感染症の疑いのある患者の診療依頼があり、鹿児島チームを2つに分け、私は、JMAT支部立ち上げを担当しました。

JMAT支部の立ち上げの活動としては、門前担当DMAT隊との情報交換や必要な物品の調達、本部との連携、応援に来たJMAT隊への指令、発熱外来の状況報告書の作成、次の活動部隊への引き継ぎ内容を作成し、初対面の隊と関係構築をしながら活動を行いました。先行するDMAT隊も私たちと同様に、活動期間3日間で、どのように被災者支援を行うか、医療ニーズは何かを探しながら介入を行っていました。DMAT隊からは、「自分たちができる最大限を一緒に支援しましょう」と同じ方針で支援を行えるようにサポートをしてもらったのが印象に残っています。

避難所生活によるストレスから、高血圧や不眠を認め不安を訴える被災者の1人から、「私が倒れたら、この避難所は運営できなくなるかもしれない」と避難所運営に対する不安の訴えがあり、保健師へ介入継続の必要性を伝えました。何もできない無力感を感じながらも、訴えに耳を傾け、情報を引き継ぐことの大切さを学ぶきっかけにもなりました。能登半島にて災害看護を実践できたことは、私の看護師人生にとってとても貴重な経験となりました。



輪島市門前支所でのJMAT運営業務



活動の進捗をこまめに記録し情報共有



通行可能な路線が限られ、迂回路も大渋滞。七尾市内の宿泊施設から支援先への移動には平常時の2倍以上の時間を要した

能登半島地震による災害支援では、七尾市を拠点に穴水町と輪島市門前町に支援を行いました。支援先への車の移動では、地震による道路の亀裂や陥没・土砂崩れ等により通行止めが発生し、迂回を余儀なくされ平常時と比較し2倍以上の時間をかけて向かう状況でした。

穴水町では集会所へ避難されている方へ診療や生活に必要な支援を行いました。避難所には倒壊の可能性がある『危険』の張り紙がされており、先の見えない避難生活であることから医療支援と精神面での支援が必要と感じました。

門前町ではJMATの支援が入っていないという情報から、JMAT鹿児島が支援の受け入れや各チームの調整、穴水町保健医療福祉調整本部との情報共有等のための対策本部を立ち上げました。

今回のような大規模災害の発災後は、都道府県の災害対策本部を中心に対応を行うこととなりますが、現地の状況に応じて支援のニーズが異なることを実感しました。災害の規模により様々な支援も得られると思いますが、まず私達がしなければならないことを整理し、患者様並びに職員、地域の安全を確保することを考えていく必要があると感じました。

日本災害リハビリテーション支援チーム(JRAT)

今村総合病院 リハビリテーション部理学療法士
科長代理 桑野 大介

2月27日～29日の3日間、JRATとして支援活動に参加しました。活動の場となったのは、能登半島からの被災者を受け入れている金沢市内の体育館で、身体に不自由を抱える方(約170名)が生活している避難所でした。

活動内容は、リハトリアージ(不活発病の高リスク者の選定と定期評価)、ADL改善目的の環境調整、不活発予防の提案、福祉用具の選定や指導、以上について他職種と情報共有を図ることでした。リハ専門職だからその気づきがあり、そこに関わることの重要性、そして被災者の生活に直接関わる他職種との連携が大切であると実感しました。その反面、避難所に関わっている各団体との境界線が明確に線引きされており、行動を起こしたいと思っても制限され、タイムリーに行動できないなど、もどかしさも経験しました。

確保できる少ない人員をどう効率的に配置するのか、リハ専門職としても何ができ、どのように貢献できるのか、災害を想定した事前の準備が大切と実感しました。



活動した金沢市内の体育館前にて



170名余が避難生活を送っていた、支援活動先の体育館

ボランティア活動

今村総合病院 初期臨床研修医(2023年度修了)
小坂 真琴

私は、輪島市の福祉避難所「うみゅーどそら」に1月29日から5日間ボランティアに行きました。元々福祉施設だった場所で、発災後は福祉避難所として高齢者や障害のある方とその家族、合計約30名を受け入れていました。主な業務は避難者の健康管理でしたが、幸い感染症の流行はなく、基本的に状態は安定していたので、常用薬の処方や避難者の情報の把握・整理を行いました。

当時、震災から約1カ月が経ち、福祉避難所の最大の課題は、次の行き先の調整でした。避難者は近場を希望しますが、県内に受け入れ余地のある施設は少なく、現実的には近隣県への避難になります。丁寧な説明と話し合いが重要ですが、入れ替わりのスタッフが避難者に寄り添いながら調整を行う難しさを痛感しました。

被災地支援という直後の急性期医療のイメージが強いですが、いかに慢性期医療・介護を継続することも重要です。近隣地域と連携し、通常業務を外部からのスタッフにより交代で回し、最前線には長期に留まる人を充てる等の工夫が必要だと感じました。



受け入れ先が無事決まり、福祉避難所から搬送される避難者を見送る場面(左端が筆者)

2024年度 慈愛会事業計画スタート

第3次マスタープランは Stage3 へ

公益財団法人慈愛会の経営方針を定めた「第3次中長期5カ年計画(マスタープラン)」は本年度が3カ年目となります。2024年度の幕開けにあたり、マスタープランの概要および法人内全施設の2024年度事業計画に基づく取り組み方針・抱負、並びに職能別各部門の新規／重点取り組み事項を特集します。

慈愛会第3次マスタープラン 計画テーマ

進化・深化

Evolution Deepening

5つの柱

- 1. 公益目的事業の遂行**
 - ・既存項目と新たな項目(追加)の検証・実績づくり
- 2. 地域医療構想と地域包括ケアシステムの体制構築**
 - ・当法人の強みである(1)一般診療科と精神科の両輪、(2)高度急性期(救急)・急性期医療から在宅医療・介護・福祉まで広範囲で切れ目ないサービスの提供
 - ・有事における対応力の強化(BCP〈災害・感染〉策定・実地訓練の実施)
- 3. まちづくり・地域共生社会の実現**
 - ・地域共生社会(こども・高齢者・障害者など全ての人々が地域、暮らし、生きがいを共に創り高め合うことができる社会)の実現を意識した、地区・域における各事業所の特性に応じた役割の獲得
- 4. 地域社会に貢献できる人材育成及び教育体制の充実**
 - ・法人内外で活躍できる人材開発と教育支援の充実
 - ・慈愛会教育システム(多職種共同教育システム)の構築
- 5. 法人運営の健全化と財務基盤の安定化・強化**
 - ・慈愛会フィロソフィに基づいた法人運営
 - ・予算に基づく事業収益、事業利益、償却前利益の確保に向けた進捗管理及び早期対応
 - ・生産性の向上＝職員一人あたり付加価値額の向上

5カ年計画スケジュール

		診療報酬改定		診療報酬・介護保険報酬同時改定		診療報酬改定	
区 分	期 間	Stage1	Stage2	Stage3	Stage4	Stage5	
		令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	令和7(2025)年度	令和8(2026)年度	
全体ステップ		地域共生社会の実現を目指す地域包括ケアシステムにおける役割の確立					
地域医療構想と地域包括ケアシステムの体制構築	一般	・ 外来機能報告を見据えた外来機能の分化、連携体制の構築 ・ 第 8 次医療計画「5 疾病 6 事業及び在宅医療」を見据えた高度専門医療・専門医療の機能強化、地域ニーズに応じた新サービスメニューの開発 ・ 予防医療の質向上と機能強化 ・ メディカルスタッフ協働によるチーム医療の積極的推進 など			・ 各診療科における中長期計画の再検証と専門医療の再強化 ・ 病棟、多職種間の連携強化を目的とした総合診療医の配置 ・ 専門医療、在宅・生活支援まで可能な総合診療体制の確立 など		
	障がい	・ 多様な精神疾患対応に向けた取り組み ・ 精神科救急医療体制の継続 ・ 認知症疾患医療の拡充 ・ 入院に頼らない精神医療の展開 ・ 地域生活支援機能の拡充 ・ 精神科病床の編成検討 ・ メディカルスタッフ協働によるチーム医療の積極的推進 ・ 災害発生、感染症流行時の対応力強化			・ 3 精神科病院（谷山・奄美・徳之島）における病床編成の再検討		
	在宅・介護	・ 質の高い在宅医療、在宅・介護支援機能強化に向けたソフト・ハード面の体制構築 ・ 法人内外における医療機関や介護関連施設とのネットワーク構築 ・ LIFE（科学的介護情報システム）のフィードバックデータによる介護の質と生産性の向上					
まちづくり・地域共生社会の実現	一般	・ 患者送迎体制の拡充と強化 ・ 地域医療連携室・IPFM（入退院支援センター）を中心とした医療機関や介護関連施設とのネットワークの拡張、関係性の強化 ・ 地域との関係構築に向けた継続的な取り組み					
	障がい	・ 行政や障害保健福祉圏域「鹿児島・奄美圏域」における関係機関との継続的な連携体制の構築、地域移行・退院支援に向けた在宅サービスの拡充、地域との関係構築に向けた継続的な取り組み					
	在宅・介護	・ 医療機関や介護事業所、地域包括支援センター等との継続的な連携体制の構築、地域との関係構築に向けた継続的な取り組み					
地域社会に貢献できる人材育成及び教育体制の充実	共通	・ 法人内外で活躍できるプロフェッショナルな人材開発と教育支援の充実 ・ 慈愛会教育システム（多職種共同教育システム）の構築 ・ 全職種能力開発プログラムの推進、ミドルマネジメント研修、慈愛会学会学術集会の開催など					
共通方針		公益目的事業の遂行、職員の物心両面の幸せの追求、法人運営の健全化と財務基盤の安定化・強化、働き方改革と DX の推進、慈愛会総合情報システム（J-TIS）の安定稼働と DWH を活用したデータマネジメントの体制構築					

今村総合病院

許可病床数428床 職員数1,090人

病院目標

急性期総合病院としての機能を高めるべく、
救急体制の強化とともにチーム医療の推進を図る中長期視点にて地域医療構想を視野に入れ、
大規模災害・感染症流行等の有事においても
「びくともしない組織」を作る

2024年度 取り組み方針・抱負

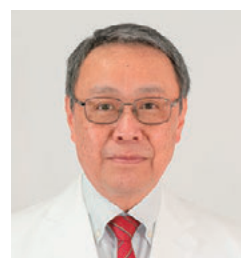
スタッフこそが最大の財産

今村総合病院の院長に就任し1年が経ちました。2024年は診療報酬と介護報酬同時改定の年にあたります。また、医師の働き方改革の元年ともなります。私共医療機関としては様々な対応が必要となりますが、主に急性期を担う病院としてはもろ手を挙げて喜べる改定・改革にはなりそうにありません。そのような中で、鹿児島医療圏で当院の強みを生かしていかに患者さんに満足して喜んでいただける医療を展開していくのかを熟考しなければなりません。

2024年度から2025年度にかけてさらに進化・深化を遂げるために予定されているプロジェクトが3つあります。それは、①2024年5月にオープン予定の慈愛会垂水サテライトクリニック（産科・婦人科専門）と②2024年度内に完成を目指している手術室の増設、さらに③2025年2月に開始予定のガンマナイフ治療です。

①に関しては産科・婦人科の医療機関がない垂水市との包括連携協定に基づいての事業であり、地元の方々からは期待値のおおきなものです。地域の医療ニーズにこたえとともに当院での安全なお産や婦人科疾患の治療などがさらに充実できることと考えています。②の手術室に関しては、当院への手術ニーズの

院長 常盤 光弘



ボリュームに応えていない現状を何とか改善するために、まずはハード面での充実を図りたいと計画しています。③に関しては建屋建築においても治療機器においてもすでに計画は定まり、細部や人員についても詰めの段階にきています。また導入費用の一部を賄うためのクラウドファンディングも計画立案中です。これらにより当院の総合的なレベルを高め、総合入院体制加算を3から2へグレードアップすることが可能となります。

これらの計画は着々と進められていきますが、我々地方の医療機関にとって最も大切なスタッフの不足が顕在化しています。今後、生産年齢人口が急激に減少していく日本でどんなにIT化が進んでも、スタッフが最大の財産であることに変わりはありません。思いやりがあり働き甲斐を感じることができる組織であるために何ができるのか、皆で考えていきましょう。そして職員の皆さんの頑張りに応じた正当な対価をお支払いすることができる病院でなければ勝ち抜いていくことができないと痛感しています。

今村総合病院 Topics

慈愛会垂水サテライトクリニック 5月OPEN

今村総合病院 産科婦人科医師が週2回垂水市に出向き診療する無床診療所が、5月に開院します。

産科婦人科の医療機関がない垂水市と慈愛会が手を結び、子ども子育て支援や、産科婦人科の医療提供体制の充実を目指して、「包括連携協定」（2022年5月締結）および「産婦人科医療体制確保事業に関する協定」（2023年12月締結）に基づき開設準備を進めてきました。

告知サイトを公開中 ➡ <https://www.jiaikai.or.jp/tarumizu>

クリニック概要

医 院 名：慈愛会垂水サテライトクリニック

標榜診療科：産婦人科

診 療 日：毎週火曜日・木曜日（祝日除く）

診 療 時 間：午後1時30分～午後4時30分（予約制）

主 な 対 象：妊娠の診断から34週までの妊婦健診（※）、子宮がん検診、生理痛・貧血・不正出血・帯下の相談、産後育児期の体調不良、更年期障害など

※分娩は扱わない。妊娠34週以降の健診は分娩施設を紹介

病院目標 「慢性疾患の患者を最後まで診る病院」
慢性期疾患を予防、急性期、回復期、維持期、終末期
全てのステージで対応できる病院

2024年度 取り組み方針・抱負

いづろ今村病院がその役割を十分に果たせる組織を作り、 共に支えとなる人を育てる

院長を拝命して1年が経過しました。2023年度は病院機能評価・人間ドック機能評価・医局移転・通所リハビリテーション移転を行い病院の機能整備を行いました。また、「かごしまオハナクリニック」「高麗町クリニック」との連携を深め、機能強化型在宅療養支援病院として連携強化を行った1年でした。

世の中では5月以降コロナ禍も終わりましたが、当り前の病院運営にはまだ難しい状況が続いています。年初には能登半島地震もあり、災害時のBCPを含めた病院の更なる機能強化が必要な状況と考えています。

そして人間ドックの機能拡充として、現在、健康管理センターにおいて9,000名/年の健診者を受け入れておりますが、今年度は、人間ドック移転を行い15,000名/年の受け入れが可

能な体制作りを目指していきます。

診療機能としては、今村総合病院との病病連携・下り搬送の体制構築、業務改善として、医療DXに向けた様々な業務効率化を推進してまいります。働きやすい職場にしていけることは当然ですが、そこに働く職員のモチベーションを上げて、当法人で働き続けられる環境作り（給与・教育・資格取得）を進めていかなければならないと考えます。私たちは、患者様、職員とそれぞれの家族に信頼され、愛される病院を目指す責任があり、その意識を共有できる互いの関係性構築と組織作りに向けて取り組んでまいります。



院長 長野 真二郎

通所リハビリテーション ウェルネスじあい

重点目標：利用者の自律した在宅生活継続のため、他事業所と連携しながら多職種で最後まで支援する通所リハビリ事業所となります。

取組事項：①利用者の目標達成に向けて個別リハビリや他プログラムの実施
②介護報酬改定に合わせリハビリ会議の開催拡大などを検討

数値目標：登録利用者数65名以上、
1日合計利用者数18名以上



指定居宅介護支援事業所 ウェルネスじあい

重点目標：医療との連携強化により、在宅療養支援病院内の居宅介護支援事業所として、自宅内での看取りや在宅生活の継続を図ります。

取組事項：①多職種カンファレンス等に参加することで情報共有し、在宅生活を継続できるよう支援していきます。
②終末期の利用者及びその家族の気持ちの変化を理解しつつ寄り添い支えるケアマネジメントの実施。

数値目標：登録利用者数 33名
平均利用者数 30件以上

病院目標 精神障害にも対応した「地域包括ケアシステム」への参画

2024年度 取り組み方針・抱負

谷山病院 院長就任にあたって

2024年4月より院長を務めさせていただきます福田恭哉です。

2021年4月より谷山病院にて副院長として勤務してまいりましたが、今回、前任の福迫剛院長の退任にあたりまして、私が院長を務めることになりました。

「医療の原点は慈愛にあり」「患者様を肉親と思い、医療の達人（プロフェッショナル）を目指します」という慈愛会医療理念を実現していくために、谷山病院基本方針の一つを「ビジョンを共有し、高い専門性を持つチーム医療を提供します」と変更することにしました。現在、多くの医療機関では人材不足が顕著となっています。谷山病院も例外ではありません。人材不足は医療の質の低下につながるがあります。そのため、多職種間の意見交換や情報共有をさらに充実させていくこと、

院長 福田 恭哉

そして職員教育をさらに充実させることが、離職者を減らし、人材確保および高い専門性を持つ医療の提供につながると考えたからです。とにかく、私を含む谷山病院で働く一人一人が、働くことに「より喜びを感じ」、働いていることに「より誇りを感じる」職場を目指したいと考えています。

今まで同様、精神科救急を通して多様な精神疾患に対応することで、地域包括ケアシステムの中で病院としての役割も果たしていきたいと思っています。

院長として、不慣れで未熟な面もあるとは思いますが、これからよろしくお願いいたします。



就労支援センターステップ

- 重点目標：①一人ひとりに合った働き方を考える事業所
②職員が意欲的に創造的に仕事をする環境作り
- 取組事項：①ワークトレーニングや就労アセスメントの機能の強化
②利用者と職員のワークバランスの充実
- 数値目標：①780（人/月）以上
②1日平均40名以上
③月平均工賃2万円以上



地域活動支援センター ひだまり

- 重点目標：地域の期待に応えられる事業所になります。
- 取組事項：①地域活動支援センターⅠ型における機能強化事業の活性化
②ピアサポーター活用事業の円滑な運営
③ホームページや関係機関訪問等による効果的な情報発信
④事務的業務の効率化
- 数値目標：①地域活動支援センター事業 21件/日
②機能強化事業 3件/月
③指定特定相談支援事業 110件/月 加算40件/月
④指定一般相談支援事業 2件/月
⑤自立生活援助事業 4件/月



グループホームしらゆりの郷

- 重点目標：個々のニーズに応じた支援を行い中間施設としての役割を果たし、安心安全な生活環境を提供します。
- 取組事項：①多様なニーズに対応できる事業所体制を構築します。
②本人の意向を踏まえたサービス提供と意思決定支援の推進を行います。
③支援の質向上の為に研修・学習の機会を充実させます。
- 数値目標：平均利用者数 30名以上
入居率 90%以上
サテライト型住居 4件以上



病院目標 奄美における「精神障害版地域包括ケアシステム 充実のための積極的な関わり」

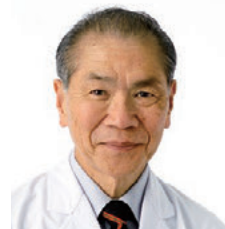
2024年度 取り組み方針・抱負

次世代にむけた一年に

本年度は第3次中長期5カ年計画（マスタープラン）の3年目に当たり折り返しを迎えます。当初描いていた外的・内的環境の変化にあわせ、振り返り、軌道修正しながら運営しなければなりません。

さて、本年度は、上記病院目標に掲げました「精神障害版地域包括ケアシステム充実のための積極的な関わり」をさらに前進させるため「グループホームと障害者用賃貸住宅」の建設がいよいよ始まり、年度中には完成、その運用が始まる予定です（P19参照）。

管理者 納 光弘



さらにデイケアの移転、保育園の移転など奄美病院グループにとっては、激動の年になります。同時に奄美病院も開設より65周年を迎えます。

本年度は次の時代の礎となる重要な一年になるに違いありません。次世代にむけた環境を整えつつ、職員一同「チーム奄美」の志を持って、精神科医療福祉活動に取り組んでまいります。

指定障害福祉サービス事業所あらいぐま

重点目標：利用者が働く場や機会を作り、一人一人に合わせた「働く」を実現します。同時に利用者の生活に寄り添い、その人らしい生活を支援します。

取組事項：①海洋プラのアップサイクル事業の継続とアクセサリブランドissueの展開
②ホテルリネン事業の拡大を通じて地域とつながり、貢献します。
③作業収益UPにより利用者工賃向上を実現します。

数値目標：1日平均利用者数51名、登録者数75名



指定特定相談支援事業所あゆみ

重点目標：地域に必要な事業所として、信頼のおける相談窓口となれるよう努めます。

取組事項：①利用者のその人らしい生活を支援します。
②支援体制の整備とサービス提供の質の向上に努めます。
③働き方改革を推進し、スタッフの必要定数確保や働きがいのある職場環境の構築に努めます。

数値目標：計画相談件数120件/月、契約者数230件（利用者数合計）



訪問看護ステーションイルカ

重点目標：訪問看護利用者が、地域や自宅で心身ともに安心して暮らせるように家族や関係機関と連携し自立に向けて支援します。

取組事項：①関係機関と連携し新規利用者の獲得に努めます。
②各訪問スタッフが1人85件～95件を維持していきます。
③喜界島を含めて奄美北部でのサテライトステーションを検討していきます。

数値目標：月平均利用者数 200件
月平均訪問件数 810件



グループホームひまわり

重点目標：利用者の笑顔を大切に、自立に向けた援助を行います。

取組事項：①通院及び服薬状況を確認し治療の継続をお手伝いします。
②日中活動を支援し、規則正しい生活リズムが身につくようお手伝いします。
③奄美病院グループの後方支援としての役割を遂行します。
④10室増室、合計22室での運営に向けたソフト面の整備。

数値目標：入居率91%

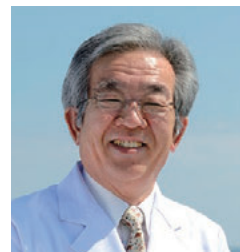


病院目標 「南三島」を支える精神科病院として、 病院体制の再構築と強化

2024年度 取り組み方針・抱負

～ 2024 年度に向けて～ 島の精神科医療を考えるターニングポイント

院長 末満 純一



慈愛会職員の皆さんこんにちは。昨年も皆さんの支援を頂いてお陰で、何とか新しい年度を迎えることができそうです。有難う御座いました。

今私達の抱えている問題はあらゆる職種での人員不足です。一昨年から病床数を減らし、看護基準まで落として頑張っていますが、それでも限界に達しております。入院を希望して来院する患者さんを断っている現状に対して、職員一同忸怩たる思いです。人口の減少に平行して患者数が減っていくのは当然ですが、それでも入院が必要な患者さんを受け入れられない！辛いです！南三島を支える精神科病院として設立した病院ですが、

今、島の精神科医療を考えるターニングポイントに来ていると思います。

何故、徳之島病院に就職したくないのか？島外から来ている私は十分に島の魅力を感じていますが（勿論幻滅を感じる点もあります）、島で育った若者たちが都会に憧れるのは理解出来るが…「徳之島病院で働きたいと思える病院作り」を模索する今年度にしたい。

先ず、現職員に対して「あなたは自分の子供を徳之島病院で働かせたいか？」「Yes」「No」に対して「その意見をください」とのアンケートをやってみては？と考えています。

グループホームうんばた

重点目標：入居者の地域移行への促進、自立に向けての個別支援

取組事項：①入退所後の総合的な支援

②入居者の健康管理

③日常生活における生活支援

④社会復帰促進の取り組み（希望する一人暮らしへ向けた支援）

数値目標：利用率91.7%



訪問看護ステーション わたりどり

重点目標：地域と協働し、その人らしい暮らしをサポートする事業所を目指します。

取組事項：①精神科医療を地域に届け経営の安定化を図ります。

②離島患者の安定した生活を支えるために継続的な支援体制を構築します。

③地域や関係機関との連携による支援の強化を行います。

④専門性を発揮でき、仕事が楽しいと感じられる人材育成。

⑤スタッフの健康と安全を守り、不安なく働きやすい職場環境を提供します。

数値目標：年間訪問件数 2520件以上

月平均訪問件数 210件以上



わたりどり Topics

看護記録に大きな改革 ～iPadを導入して～

iPadの導入により、看護記録の作業時間において大きな改革へ繋がっていることをスタッフ皆が実感しています。例えば、利用者さんに承諾が得られればその場で記録の入力ができること。そして、離島訪問時には隙間時間で記録の入力ができ、帰島後に要していた時間の大幅な短縮につながっています。導入から2カ月、記録の効率化が図られています。

訪問看護ステーションわたりどり スタッフ一同



目標 谷山地区における地域包括ケアシステムの拠点としての役割強化の推進 ～地域を支え選ばれる組織作り～

2024年度 取り組み方針・抱負

地域における在宅復帰・在宅療養支援の担い手である「超強化型老健」としての存在意義を示す

施設長 海江田 一也



2024年4月から介護老人保健施設 愛と結の街の施設長を務めさせていただきます海江田一也です。以前他法人の老健で施設長・老健医師として12年ほど勤務した経験があり、その経験を活かして愛と結の街に貢献できたらと考えています。どうかよろしくお願い致します。

2023年5月に新型コロナウイルス感染症の分類が5類へと移行されましたが、高齢者施設である愛と結の街では利用者の感染拡大が起こるなど様々な影響を受けた2023年度でした。今年度も法人内の各病院との連携・協力をいただきながら、新型コロナを含む新興感染症に対応できる高齢者施設を目指していきます。

今年度はトリプル改定の年であり愛と結の街グループの各事業所でも様々な変化、改善が必要となっています。ただし、介護報酬改定の加算配分を見ると在宅復帰・在宅療養支援に特化した老健である『超強化型老健』の役割が重要視されていることが明らかであり、今までの愛と結の街の方向性が間違っていなかったことが分かります。これからも地域にお住まいの方、地域の各事業所から頼られる『選ばれる老健』として存在感を示していきたいと思っています。各併設事業所もそれぞれの専門性を発揮し、地域の方々の様々なニーズに応えられる『選ばれる愛と結の街グループ』であるために2024年度の事業計画を進めて参ります。

指定居宅介護支援センター愛と結の街

重点目標：生活に困難を抱えるご利用者、ご家族の相談を受け、ご本人の希望に沿った住み慣れた地域で生活が続けられるように、地域の社会資源も生かした介護保険サービスを調整しご利用者、ご家族を支えていきます。

取組事項：①本人の意思を尊重し自己決定・自己選択に基づき、医療サービス及び福祉サービスが総合的・効率的に提供されるよう支援していきます。
②利用者の自立性を改善、向上できるように、在宅生活の不安や課題を抽出し、インフォーマルサポート調整も含めた自立支援型ケアマネジメントができることで在宅生活限界点を引き上げていきます。
③「最期をどう迎えたいか」「自分らしく生きることができるよう」、について話し合うきっかけと機会を作り、本人の価値観や希望を家族、医療ケアチームと共有し意思決定支援することができる「ACP」の実践に取り組んでいきます。

数値目標：①登録利用者数 140件/月
②医療機関連携による加算取得率 70%以上



ヘルパーステーション結の街

重点目標：住み慣れた環境で、できることを続けながら安心して生活できる暮らしを一緒に考え、継続的な支援を提供します。

取組事項：①グループ内外の多職種と協働し、ニーズに合わせた支援の提案
②多様なニーズに対応できるスタッフの育成

数値目標：①訪問件数月850件以上
内、身体介護：月200件以上
②毎月の新規利用者2名以上受け入れ



愛と結の街グループ

デイサービスセンターあしたの風

重点目標：愛と結の街グループや谷山病院・地域と連携し、利用者や家族が自宅で安心した生活を継続できるように支援していきます。

- 取組事項：**
- ①多職種共同で認知症の専門性を高め、利用者のBPSDの緩和や心身機能の維持を図ります。
 - ②認知症や介護の困り事相談や専門的アドバイスをを行い、家族の介護負担の軽減を図ります。
 - ③地域活動を再開し、地域住民への認知症の理解を深めていきます。

数値目標：利用率75% 新規利用者15名



グループホーム愛と結の街

重点目標：住み慣れた地域で暮らし続けられるように、愛と結の街グループ・地域の事業所と連携を図り、安心・安全に過ごせるよう支援します。

- 取組事項：**
- ①他職種と連携を図り状況に応じた介護サービスを提供します。
 - ②1日でも長く生活できるように予防的視点で支援します。
 - ③多様なニーズに対応できるスタッフの育成を行い、ケアの質向上に取り組んでいきます。
 - ④地域住民との交流を積極的に行い、認知症とグループホームの理解に努めていきます。

数値目標：利用率98%以上



デイサービスはなぶさ

重点目標：地域や他事業所と連携を図り、生き甲斐を持って住み慣れた地域・自宅で生活し続けられるように支援していきます。

- 取組事項：**
- ①住み慣れた地域で1日でも長く、生き甲斐や役割を持って日常生活を過ごせるように他事業所と連携を図りながら支援していきます。
 - ②愛と結の街グループ、他事業所と連携を図りながら、状態に合わせた適切なケアができるように支援していきます。
 - ③介護の困りごとや相談に応じ、介護負担の軽減に努めていきます。

数値目標：

- ①平均利用率 55%以上
- ②他支援事業所割合 35%以上



住宅型有料老人ホーム あいゆいの家

重点目標：心身ともに健康で充実した生活を営むことができるように、良好な生活環境を保持し生活支援を行います。

- 取組事項：**
- ①関連事業所と連携を密に図り、入居者が自宅と同様に快適な生活ができるように適切な環境を提供します。
 - ②他事業所と連携を図りながら、生活領域の拡大や生き甲斐のある生活が送れるように支援していきます。

数値目標：

- ①入居率 80%以上
- ②入居者数 年間平均8名以上



慈愛会在宅支援部

職員数(笹貫訪問看護ステーション愛の街) 19人

2024年度 取り組み方針・抱負

3年目の飛躍 ～共に育つ組織づくり～

在宅支援部として3年目を迎えます。在宅における訪問看護の需要はますます高まり、各施設との連携も強化し、特定行為研修修了看護師による特定行為実践は、利用者の在宅医療の推進にもなり生活の質を維持できることから、当ステーションの強みとなっています。それに応えるべく訪問看護の質向上も図らなければなりません。限られた人材でいかに地域

在宅支援部長 中藺 明子

住民へ安心・安全な訪問看護を提供していくかというところでは、訪問看護クリニカルリーダーによる人材育成やはじめでの新卒訪問看護師の入職により、フレッシュな風を感じながら共に育つ環境づくりを推進していきたいと思います。



笹貫訪問看護ステーション愛の街

重点目標：心に届く慈愛の看護をモットーとし、地域で必要とされる事業所を目指します。

取組事項：①法人内や地域での円滑な連携の強化。
②各専門職種の力を発揮できるように、生産性の向上を目指します。
③サテライトを活用し、エリア拡大に努めます。
④多様な健康障害の利用者に対応できる人材育成。
⑤やりがいのある職場風土をつくります。

数値目標：①利用者数300名
②年間12,000件（月間件数1,000件）
一般：5,000件 精神科：7,000件

鹿児島中央看護専門学校

定員 3年課程看護科40人
職員数 20人 校長 今村 英仁

2024年度 取り組み方針・抱負

選ばれる学校づくりの推進 ～看護の本質を考え、学生の心を育てる教育を～

令和5年度、本校は創立60周年を迎えました。これまで本校は「奨学と慈愛」の理念の下、長きにわたり、慈愛の心を基盤とした教育に取り組み、鹿児島県下をはじめ、各地域に多くの看護師を送り出す役割を果たして参りました。

しかしながら、近年の少子化、看護教育機関の大学化という大きな流れもあり、全国的にも養成所を取りまく環境は年々厳しさを増しております。

そのような情勢の中、本校が将来にわたり選ばれる看護学校として生き残るためには、学生の「心」を育む教育活動にさらに注力し、ひいては本校が目指す「慈しみの心」をもった人

副校長 久徳 美鈴

間性豊かな看護師の育成へと深化させていくことが重要となります。

また本年度は、本校の強みと魅力を積極的に発信するべく、広報活動にも力を入れ、学生確保に取り組んでいきます。

加えて、学校の今後の在り方につきましても、この一年を通して慈愛会グループ各施設の皆様とご意見を交わしながら、将来に向けより良い学校づくりを目指していきます。



慈愛会クリニック

職員数 14人

診療報酬改定の影響と医療の充実

院長 今村 尚子



今年度の目標患者数は前年度と同数の患者延べ数880人、糖尿病患者数を800人と設定しました。コロナの影響も少なくなってきましたが引き続き、患者様に選んでいただける環境づくりに努めます。

また、今年度は大幅な診療報酬改定の年であり、当院も大いに影響を受けることになります。糖尿病などの疾患において特定疾患管理料が除外されることになり、新たに生活習慣病管理料Ⅱの算定を検討しています。ほかにも算定可能な加算は積極的に取り入れる予定です。これまで以上に経費削減や仕事の効率化も重要になります。

ただ、糖尿病専門外来として患者様へ提供する医療の質を落とすことなく、今期の収益の危機的な状況を打開できるように努めます。

七波クリニック

職員数 23人

新年度へ向けて

院長 鮫島 久子



当院は糖尿病内科として診察前に栄養士を含め看護師による問診、療養指導、症例によっては足観察を行い、医師診察の流れで診察を行っています。

医師の体制は常勤1名、非常勤5名ですべて糖尿病専門医です。CDE4名は看護指導、栄養指導など、療養指導にはげみ、昨年度は簡単な糖尿病教室を行うことができました。今年度も何らかの形で会を開催できればと準備中です。

GLP-1製剤やインスリン注射治療の制限があり、また診療報酬改定や高齢者の増加など難しい状況もあります。手探りとなりますが患者さんたちに寄り添う医療が行えるよう努めていこうと思います。

高麗町クリニック

職員数 12人

病診連携強化で在宅医療を支援する一翼を担う

院長 木原 浩一



昨年度は慈愛会の中で病診連携を図るための基盤を共通化してきた効果が現れ、今村総合病院・いづろ今村病院との間で患者の皆様の受け渡しが円滑になりました。2024年度は、これまで以上に患者の皆様をお引き受けしたいと考えています。現在までに訪問診療契約数が70-80名から100名台に到達しましたが、120名に引き上げたいと考えています。訪問リハビリテーションは30名台でコンスタントに継続したいと思います。

通院が困難となり御家族の負担が増大した患者の皆様を、訪問診療で診療機会を増やすことで、病院の外来負担の軽減に繋がります。病院の入院外来部門と連携を図ることで精密検査や入院加療も出来ることが、慈愛会グループの大きなアドバンテージであると思いますので、当院もその一翼を積極的に担って参りたいと存じます。

かごしまオハナクリニック

職員数 17人

「二段構えのかかりつけ機能」で、すこやかさと安心を1人でも多くの方へ

院長 林 恒存



かかりつけ診療所として私達が大事にしたいのは、健康に関するよろず相談所として、多くの近隣住民の役にたち、そしてそのつながりを末長く維持することです。通院可能なうちは定期外来で、そして通院が困難になってきたら訪問診療、の二段構えによるかかりつけ機能がそれを可能にすると考えます。

当院は現在、外来と在宅療養あわせて約1200名のかかりつけですが、2024年度は新たにスタッフを増員し、業務の標準化と人材育成・教育により質を担保しながらさらに多くの方にかかりつけとして選んでいただけるよう尽力します。そして、全てのスタッフが決して無理することなく、日々誰かの役にたてる喜びを感じながら働ける組織作りを目指します。

看護部支援室

労働環境改革に徹底的に取り組む、働きたい職場環境へ（重点）

今後ますます少子化による人材不足が予測され、看護師不足も深刻化しています。医療現場では看護師の人材不足による負担感が増加し離職につながる懸念があります。労働環境改善には日頃より意識を高く取り組んでいますが、全職員で再度業務を見直し、ムダの改善に取り組めます。各施設最低5項目の改善を目指し、本来の看護業務に専念できる労働環境整備対策を強化します。成果が見える化し、職員の労働環境の改革、それが職員の働きたい労働環境につながることに取り組みます。学生アルバイトや看護補助者の採用による負担感軽減を図ります。

リクルート活動強化（重点）

併設看護学校以外の就職数が減少しており、人材確保が喫緊の課題です。労働改善と同時にこれまでのリクルート活動の方法を見直し拡大を図ります。鹿児島県内中心の活動を九州管内、特に福岡、長崎、佐賀、大分、熊本方面に拡大し、学校訪問活動の強化及び広報活動によるリクルート活動の強化を図ります。入職支度支援金の見直し、奨学金貸与規程の策定による採用につなげます。採用と同時に離職防止、労働環境改革に徹底して取り組みます。

看護管理者の育成計画（新規）

今後5年間を目標に、次世代の看護管理者育成の見直しを行い、5年後に目標が達成できる仕組みを構築します。

現在、看護管理者育成のためのマネジメントラダーを活用していますが、若い世代が看護管理者を積極的に希望して目指せるしくみを考えたい。看護管理者の責任や役割は大きくなる一方、やりがいにつながるよう、看護管理者を目指す人が多くなることを期待し、育成計画を明らかにします。

リハビリテーション部

訪問リハビリ事業（新規）

2024年度中のオハナクリニック訪問リハビリ開始に当たって、総合病院リハスタッフが共に活動していきます。本取り組みの存在は、救急で総合病院をご利用頂く患者様や総合病院へご紹介頂く連携施設側にとって、救急治療後の在宅生活がより具体的に想定できる大きな安心材料となります。今後、慈愛会の強みの一つとなると考えています。

慈愛会リハ部連携強化（重点）

リハ活動発表会の2024年テーマ「地域連携」に沿って、慈愛会リハ部の鹿児島国体サポート、垂水市での言語相談・中学生への講演、市内他施設での嚥下評価サポート活動、その他を、報告・情報共有し、地域に対する取り組みの重要性について慈愛会リハスタッフの意識向上に努めます。更に本取り組みのHP・YouTube・Instagram発信を工夫継続し、慈愛会リハ部の地域での更なるイメージアップに繋がっていきます。

DX活用（患者獲得・人材確保・教育）（重点）

患者獲得：県民に対し、HP・YouTubeで障害予防情報・治療効果実績・学会発表実績・研修報告・優秀な人材紹介等々を発信していきます。

人材確保：HP・YouTube・Instagram・地域コミュニティー誌で募集掲載、働きがいのある職場のイメージを発信していきます。

教育：YouTubeの慈愛会リハ部限定公開の形式で、各施設が専門分野の立場で動画配信し、慈愛会リハ部全体とともに学習を進めていきます。

薬剤部

在宅緩和ケアにおける地域調剤薬局との連携（新規）

急性期病棟、緩和ケア病棟等から在宅・施設へ退院する患者の在宅ケア支援に対応できる複数の調剤薬局との連携を図り、外来化学療法・緩和ケア療法の患者の在宅ケア支援の充実を図ります。

薬学生・高校生の薬剤師希望支援へのアプローチ（新規）

各大学における当法人への就職希望者、薬学を目指す高校生に対して今年度より奨学金制度を導入し、生活環境の厳しい学生に対して国家試験の取り組みへの支援活動と将来薬剤師を目指す学生の支援活動を行います。

人財育成《クリニカルラダー》・薬剤師の魅力ある環境づくり（重点）

慈愛会薬剤部60名体制を目指しクリニカルラダー・レベルの到達度評価をもとに幅広い年齢層に対してのスペシャリスト・ジェネラリストの育成を目指します。また、2023年度離職率10%以下の目標達成し、更なる薬剤師の充実を図ります。男女ともに産休・育休、介護休などを取得し、勉強もでき、ライフイベントにも対応できる環境整備を継続します。

画像診断部

ガンマナイフ（放射線治療）新規導入準備（新規）

2024年度内ガンマナイフの新規導入・稼働に向けて、スタッフの確保・教育・研修、特定放射性同位元素防護規程の作成、治療装置および計画装置の日・週・年品質管理マニュアルの作成等を行い、安定的な導入・質の高い放射線治療の提供を目指します。

地域医療機関との連携強化（重点）

施設訪問の強化。いづろ今村病院MRI更新等を機に、満足度の向上、更なる連携の強化を行いC@RNA契約施設増加を図ります。

人財育成（重点）

引き続き告示研修受講・資格取得を促し、タスクシフト・シェアの推進と実施を進めていきます。また多職種で協働できる技師、法人内施設で相互勤務のできる技師、専門性を高めることのできる技師など、院内・地域から求められる人財育成を行っていきます。

臨床検査部

慈愛会臨床検査部パンフレットの作成と活用（新規）

慈愛会臨床検査部パンフレットの作成を進めます。コロナで活用の機会が少なくなると中断したパンフレット作成を、最新の検査部情報に加筆、改訂し作成します。病院の広報、病院訪問など活用する機会を検討します。

タスク・シフトシェアへの取り組み、人材育成（重点）

タスク・シフトシェア講習会の全技師修了を進めます。キャリアアップできる環境作りに取り組み、スキルを活かしたチーム医療、業務拡大へ積極的に取り組める臨床検査技師を育成します。

慈愛会臨床検査部連携（重点）

臨床検査部一体化会議の隔月開催の実施。人員減で人員確保が難しい状況での業務拡大に関して、安全な検査業務の維持のため、病院間で検査システムや検査手順の情報の共有、人的交流などをおこないます。

栄養管理部

栄養管理の充実（新規）

現行の栄養スクリーニング方法に加え、新たに低栄養の世界の診断基準（GLIM 基準）を取り入れた栄養管理の体制を作っていきます。

調理スタッフの連携（重点）

調理スタッフ不足はどの施設においても慢性的であり、人員不足への対応が続いている状況です。給食運営維持のため、慈愛会内給食部門での連携を深め、施設を越えて協力できる体制作りが望まれます。調理スタッフの視点から作業内容や効率など、共有・統一を見据えて検討する場を設け、給食提供に連携して取り組める体制を目指します。

医療ソーシャルワーカー部

キャリアラダーの見直し（重点）

現在、社会福祉士、精神保健福祉士ともに医療ソーシャルワーカーとしての共通のラダーを運用しています。各協会から、専門職種に添ったラダーが出され、専門性の質向上を図るためにも見直しが必要と考えます。2025 年度から運用できるよう、今年度での見直しに取り組みます。

慈愛会総合情報システム（J-TIS）

セキュリティの強化（新規）

サイバーセキュリティ対策として、NGAV（次世代型アンチウイルス対策ソフト）の導入を行い、EDR・NDR などの検知機能や MDR・SOC などのセキュリティマネジメントサービスの導入を検討します。また、オフラインバックアップや複数媒体へのバックアップ保存環境を整備し、災害・サイバー攻撃・システム障害などの非常時に備えます。

システムの最新化（重点）

J-TIS ハードウェア基盤を更新し、電子カルテシステム・医事システムを最新バージョンに更新します。部門システムについても、必要に応じてバージョンアップを行い、システムの最新化を図ります。また、モバイル端末を利用したコミュニケーションツールを導入し、業務の効率化を進めます。

施設管理

省エネ設備の検討及び導入（新規）

設備の経年劣化等による更新の際、省エネ設備を検討し、各施設の仕様に適している場合には、併せて省エネルギー設備への更新を促進するための補助金を活用します。また、省エネ診断（専門家によるエネルギー使用の実態把握や運用改善のアドバイスをする事業等）を受診し、コスト削減にもつながる設備の運用改善や省エネ設備導入についての情報収集等を行い更新に備え準備します。

省エネ法に伴う定期報告、目標部分（エネルギー消費原単位を中長期的にみて年平均 1% 以上削減の努力）の達成に向けての体制再構築。（重点）

「エネルギーの使用の合理化等に関する法律」（省エネ法）により慈愛会全施設のエネルギー使用量等を年 1 回報告する義務があり、報告の目標部分（エネルギー消費原単位を中長期的にみて年平均 1% 以上削減する努力）の達成に向けて現状に合う機器管理標準の見直しを各施設行い、施設管理課会議（月 1 回）により検討し運用します。

スタッフのレベルアップ（重点）

本年度は電気基礎講習（講師：九州電気保安協会）内容の充実を図り今後、第 2 種電気工事士、第 1 種電気工事士、第 3 種電気主任技術者等の資格取得に備えます。また、月 1 回開催の施設課会議内にて簡易的な講習会を年 6 回開催する予定です。

総務人事部

新給与制度の導入（重点）

法人の理念・ビジョンに基づいた新給与制度を導入し（医師除く）、給与水準の引き上げ及びベースアップを実施します。また、年功ではなく、業績・役割・個々人の貢献度に応じた処遇とするほか、公平な昇進・昇格に向けた昇格要件の見直しを行います。

管理会計（重点）

昨年度に引き続き、最終キャッシュフロー（C/F）残高を事業所ごとの目標とする管理会計とし、将来の建物設備投資準備資金としての C/F の蓄積（全体で 1 億 7,670 万円）を加味した予算となっております。

なお、夏季・冬季賞与支給率は貯蓄目標額の達成状況により決定されます。

新人事評価制度の構築（新規）

評価制度上で行動を明文化し、評価の運用を通じて実行レベルの向上を図り、役割に基づいた人事制度とします。役職任期制度を見直し、誰もが役職者にチャレンジできる体制整備を実施します。

人件費コントロールを行いつつも役割や業績に基づいた処遇を行うことで優秀な人材の定着につなげます。

教育開発センター

慈愛会フィロソフィ新バージョン（ver.2）公開と周知（重点）

2024 年の慈愛会創設 90 周年を見据え慈愛会フィロソフィバージョンアッププロジェクトを立ち上げ、検討を重ねてきました。6 月に新バージョンが完成します。90 周年を記念して職員に披露し、冊子を配布します。更に周知方法の検討を行い、周知を徹底し、働く職員の基盤となることを目指します。

キャリアアップ支援強化（新規）

2023 年度、キャリアアップ支援として支援セミナーを開催しました。職員の個々のキャリアアップについて学び、参加者のキャリア支援につながったと考えます。キャリアアップは個々の向学心や資格取得への目標が明確であることが動機となります。長期研修派遣に関しては慈愛会の奨学金を活用できる制度は整備されています。職員一人一人が時間と経費を自己投資し自己成長を図り続けることへの支援のしくみを構築してやりがいにつなげていきます。

マネジメントラダー構築（新規）

今後 5 年を目標に、トップマネジャー 40 代の活躍が期待され、今後、管理者育成のプログラムの見直しが求められます。看護管理者育成に関してはマネジメントラダーを構築し、計画的育成に取り組んでいます。その他の職種に関しては未完成です。多職種管理者に関するマネジメントラダーを構築し意図的育成に取り組み、管理者の質の向上や、管理者を希望する者が増加するよう取り組んでいきます。

公益財団法人慈愛会は第75期入職式を2024年4月1日(月)に開催しました。新卒94人(今村総合病院67、いづろ今村病院13、谷山病院8、奄美病院3、徳之島病院1、介護老人保健施設愛と結の街1、慈愛会在宅支援部 笹貫訪問看護ステーション愛の街1)と既卒者22人の計116人が各配属先で式に臨み、今村英仁理事長の式辞が法人事業本部(鹿児島市鴨池新町)からライブ配信されました。

今村理事長は「今年慈愛会は90周年を迎えます。私の祖父今村源一郎が90年前、祖母と看護師見倣いの3人で始めた産婦人科医院が、今や2,000人を超える組織に成長しました。皆さんの先輩方がひたむきに努力を積み重ね、困難にぶつかってもあきらめずに、今の慈愛会をつくり上げてきました。医療を取り巻く情勢は厳しいですが、患者さんやご利用者に『慈愛会にお世話になってよかった』と思って頂けるのが一番です。皆さん一緒に頑張りましょう」と新入職員に呼び掛けました。

本誌面では、新社会人としての一步を踏み出した新卒新入職員94人の配属先、職種、お名前をご紹介します。



第75期新卒新入職員

(氏名省略)

愛と結の街より

野村先生 長年おつかれさまでした

介護老人保健施設愛と結の街の野村秀洋施設長（いづろ今村病院名誉院長）が2024年3月31日を以って退任され、約36年にわたる慈愛会での勤務を終えられました。

野村先生は鹿児島大学消化器・乳腺甲状腺外科（旧第一外科）から今村病院（現いづろ今村病院）に赴任し外科を設立、1988（昭和63）年から外科部長、1990（平成2）年から24年間院長、2018年（平成30）年から今年3月まで愛と結の街施設長を歴任されました。鹿児島県医師会副会長などの要職にも就かれ、慈愛会はもちろん、鹿児島県の医療発展に大きな功績を残されました。

愛と結の街では3月最後の朝礼の際に、感謝の気持ちを込めて花束贈呈を行いました。

慈愛会を“卒業”される野村先生、36年間ありがとうございました。



奄美病院より

障害のある方々の暮らし 充実のために グループホーム/アパート 複合施設着工

奄美病院は現在、グループホームひまわり（12室）を運営していますが、長期入院の患者さんの退院後の受け入れ先拡充のため、また、地域で自立した社会生活を送りたいと希望される障害者の方々が円滑に住まいを確保できるよう、さらに、知的障害者の方向けの愛の浜園グループホームの移転新築も併せて検討が進められ、複合型施設の新設が実現しました。

4階建ての当複合施設（奄美病院：グループホーム10室、障害者向け共同住宅（アパート）12室、愛の浜園グループホーム6室）は2024年10月の完成を予定しています。

この「公益財団法人慈愛会奄美病院グループホーム及び共同住宅新築工事/社会福祉法人慈愛会愛の浜園グループホーム新築工事」の安全祈願祭が3月13日（水）に举行されました。設計や工事関係の方々、奄美病院、愛の浜園、公益財団法人慈愛会と社会福祉法人慈愛会の職員が参加し、神事が滞りなく執り行われました。

工事が安全に進められ、障害を持つ方々が地域で安心して暮らしていけるような施設とされるよう願っています。



いづろ今村病院より

MRI新装置 3/25稼働開始

いづろ今村病院ではMRI（Magnetic Resonance Image）装置を最新装置Vantage Fortian（1.5テスラ、キャノンメディカル社製）に更新し、3月25日に稼働を開始しました。撮影時間が短縮され、撮像音の大幅な静音化も進み、患者さんの負担が軽減したことに加え、①Deep Learning技術（深層学習）を用いた画質向上②患者さんが入る開口径が60cmから71cmに拡大し検査空間が広がったことで、体格の大きな方、腰の曲がった方、仰向けが困難な方も検査可能に③自由呼吸下の検査が可能となり、動きを止めることの難しい状況下でも検査を行える一等、従来装置より多くの点で改善が進みました。

精度の高い画像提供で、院内はもとより、当院に検査依頼くださる地域の医療機関にも一層の貢献ができるものと期待しています。



法人事業本部より

告知 慈愛会創設90周年記念事業 特別記念講演会 開催

世界的に著名な建築家であり、人生100年時代を見据えた語り部としても知られる安藤忠雄先生をお招きします。

詳細は後日通知します。ご注意ください！

日時	2024年7月27日（土） ※18:00～20:00（著書サイン会含む）
講演	安藤忠雄 先生 （東京大学特別名誉教授、文化勲章受章者）
場所	かごしま県民交流センター
対象	鹿児島県民&慈愛会スタッフ

「誰かの役に立ちたい」を作業療法で (2023/11 スタート)

今村総合病院

今村総合病院の作業療法では、手先のリハビリや余暇活動としてぞうきんを作り、地元・鴨池地区の小中学校に寄贈する「ぞうきんプロジェクト」を始めました。連携協定を結んでいる鴨池校区コミュニティ協議会の協力を得て、不要になったタオルや布を収集しています。

作業療法のリハビリでは、入院生活でベッドから離れる機会が少なくなってしまった患者さんと一緒にさまざまな制作活動をしませんが、ただ何となく作品をつくるのと、地域の子供たちが元気に使ってくれる姿を思い描きながら作るのでは取り組む気持ちが全然違うと思います。

『誰かの役に立ちたい』—誰しもが心の中に持っている優しい気持ちです。ぞうきんプロジェクトが、患者さんと地域を元気にする一助になればと思います。



島唄コンサート (2023/12/22)

谷山病院

2023年も終わろうとしている年の瀬に、谷山病院に素敵なプレゼントが届きました。かごしま国体閉会式を飾り、いくつもの賞を受賞されたシマ唄歌手、指宿桃子さんによるコンサートが開かれたのです。コロナ禍により、院内でこのような催しを控えていた中での開催に、患者さまはもちろんのこと、職員も大変楽しませていただきました。

生の三味線演奏ときれいな歌声に魅了され、自然と手足は動き、口ずさみ…最後は一体感を共有できました。

デイケア利用者の書道作品やお花で彩られた会場を見た指宿さんが「嬉しい」と喜び、感動した表情が印象的でした。



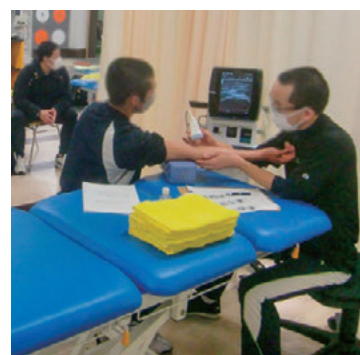
高野連主催 初の「肩・肘検診」に高校生投手340名が参加 (2024/1/28, 2/4, 2/18, 2/25)

今村総合病院

「故障なく夏の大会を迎えてほしい」という鹿児島県高等学校野球連盟山内理事長の、熱い思いを受けて、今村総合病院の海江田英泰医師、吉田研吾・轟原と織理学療法士が中心となり、県内で初めての取り組みとなる高野連主催の肩・肘検診事業(参加費無料)を当院で実施しました。

鹿児島県理学療法士協会協力のもと、県内の理学療法士と鹿児島大学医師、延べ116名のスタッフが、4日間で約340名の投手を対象に、ストレッチや筋力トレーニングの方法、病院受診の必要性などを伝達しました。当院からも8名(多田克史・鯨島智志・橋口由美子・迫田彩夏・岡弥津希・山口隆文・西牟田亮・櫛毛滉平理学療法士)が参加し、鹿児島県高校野球の障害予防への取り組みに貢献いたしました。

当院での開催にあたって常盤院長、鈴木事務長補佐、施設課榎田課長、リハビリテーション部浜田室長・白尾科長にご理解ご配慮いただき感謝申し上げます。皆様のご協力ありがとうございました。



鹿児島マラソン2024 救護班活動 (2024/3/3) 今村総合病院・いづろ今村病院

フルマラソン、ファンラン(8.9km)合わせて9,400人余が参加した鹿児島マラソン2024に、慈愛会から救護スタッフ2班(各班 医師1名、看護師2名)が派遣されました。

今村総合病院の救護班は朝方、鹿児島市の鴨池陸上競技場南門付近の救護所を担当。スタートから1時間ほど、往路のランナーたちを見守った後、宝山ホール・ホワイエに設置された救護所へ移動しました。

いづろ今村病院の救護班は、鹿児島市上本町交差点付近の救護所を担当しました。穏やかな晴天のもと、ランナーの皆さんの無事を祈りつつケアにあたりました。



第19期生 卒業式 (2024/3/4) 鹿児島中央看護専門学校

鹿児島中央看護専門学校の令和5年度卒業式が川商ホール4階市民ホールで挙行政され、第19期生42名が学び舎をあとにしました。

コロナが5類になって初めての卒業式。卒業生はマスクを着けずに式典に臨むことができました。マスクをしていない顔をちゃんと見るのは、私達職員も学生証の顔写真を撮影したとき以来です。久しぶりに見たその表情は別人かと思うほどに成長し、達成感に満ちていました。

3年間を振り返ると、常にマスク着用や黙食を余儀なくされ、本当に我慢や制約の多い学生生活でした。葛藤はそれぞれあったはずですが、目の前の課題に一人ひとりがしっかりと向き合い、きちんとクリアしてきた彼らは本当に立派だと思います。

卒業式の最後に、全員が舞台上上がり、卒業生の一人が奏でるピアノ伴奏でKANの「愛は勝つ」を担当教員と一緒に熱唱しました。

これから看護師としてスタートラインに立つ19期生たち。個性豊かな皆さんの活躍が本当に楽しみです！



初期臨床研修医10名が“卒業” (2024/3/11) 今村総合病院

今村総合病院の初期臨床研修プログラム「錦江湾プログラム」の修了証授与式が開催されました。納光弘 研修管理委員長(慈愛会会長)が、2年間の研修を終えた10名に修了証を手渡し、はなむけの言葉を贈りました。“卒業生”一人ひとりも挨拶に立ち「大学生の頃に思い描いていた医師の姿には程遠い自分が、もどかしくて、悔しくて、挫けそうになった時もありましたが、周りがたくさん支えてくれました」等、研修期間中の苦悶や戸惑い、そして研修医たちを励まし支え続けた病院スタッフへの感謝の気持ちを述べました。

《連携施設の皆様へ》

研修医へのご指導と鞭撻ありがとうございました。今後とも皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。



法人事業本部 総務人事課より 投資教育動画シリーズ vol.6

4月になりました。将来の備え、見直してみませんか

2024年から新たに「新しいNISA(少額投資非課税制度)」がスタートしました。

新しいNISAはこれまでの「つみたてNISA」・「一般NISA」に加え、年間投資額が拡大し非課税期間が無制限になるなど、資産運用の幅が広がるものとなっています。

iDeCo、NISA、聞いたことはあるけど違いがわからないという方に、確定拠出年金Informationでは簡単に違いをご紹介します。二次元コードからぜひご確認ください。

★WebサービスのログインIDの再発行や確定拠出年金に関するお問い合わせはこちらへご連絡ください。
電話番号 099-223-6665 (平日9時から17時) 鹿児島銀行金融資産コンサルティング部 (DC担当)

確定拠出年金
Information



前号で掲載した動画をリニューアルし、2024年3月末での運用実績も報告しております。



確定拠出年金Webサービスで商品の確認や変更が可能です。ログインはこちら↓



<https://www.nrnk.co.jp/rk/Login.html>



チューバの達人

今村総合病院 医師事務補助課

医師事務作業補助者 (DA) 溝口 天馬 さん



小さい頃からピアノを弾くのが好きで幼稚園の先生や小学校の先生のマネをしてよく耳コピをしていました。小学4年生の頃、音楽の先生に金管バンドに誘われて最初に吹いたのはトランペットでした。

中学生に上がり、吹奏楽部に入部するとチューバという金管楽器の中で一番大きい楽器に任命されました。これがチューバとの最初の出会いです。最初は吹くのも大変で、重くて、体ごと楽器に隠れて客席からは見えないし…正直不満しかなくて大嫌いな楽器でした。

吹奏楽部は夏に大きな大会が2つあり一団体ずつに与えられた「12分」のために血の汗や涙を流しながら練習します。必死な先輩にお尻を叩かれながら一緒に切磋琢磨しているうちに、いつのまにかチューバと真剣に向き合っていて、気付いた時には“一番好き”な楽器に変わっていました。

高校も吹奏楽を続け、鹿児島県内各地での演奏会や県外遠征や合宿など、音楽に没頭できる恵まれた環境の中、充実した高校時代を過ごしました。九州大会では金賞を受賞でき、大きな達成感を味わいました。

高校卒業後は、仲の良い先輩から楽団へ誘われて今も吹奏楽を続けています。感染症の流行によりなかなか練習に参加出来ず楽器を吹く機会が減っていましたが、最近は段々と制限も緩和され、最近また楽器に触れる時間が増えました。また、いろんな場所で音楽を耳にする機会が増えてきた気がします。実は私が所属している「宮之城吹奏楽団」も今度定期演奏会を5月12日に開催予定です！場所は鹿児島市の宝山ホールで13:30開場、14:00開演です。お時間の許す方は是非ご来場下さい♪

最後に、今までの活動の中で「音楽は心と心を結ぶ虹」という言葉を耳にしたことがあります。慈愛会に所属されている職員の方々にも楽器をされている方がいたら、この記事を通していつか一緒に演奏できることがあるかもしれませんね。今後も音楽を続けていく中で、音楽の素晴らしさをたくさんの人に伝えることが出来る演奏者になれたらと思います。



楽団の練習の様子



チューバ演奏中

第36回定期演奏会
宮之城吹奏楽団

2024.05.12 日
開演14:00 (開場13:30)

演奏曲目
ゴッドスピード! S.メリロ
交響組曲ハリーポッターと賢者の石 I.ウィリアムズ
2024年度全日本吹奏楽コンクール課題曲より...その他、演歌・ポップス

場所
宝山ホール
(鹿児島市電「朝日通」電停より徒歩5分)

Instagram 随時更新
Facebook 更新中!
miya_sui souで検索

演奏会のご案内



「慈愛会フィロソフィ」の浸透に向けて【奄美病院の取り組み】

奄美病院事務部では週に1度、毎日の朝礼時に司会者がフィロソフィを1項目読み上げています。各朝礼参加者も音読に合わせそれぞれ黙読し、より理解を深められるように図っております。

事務部は複数の部門に分かれており、それぞれが院内各部署と密に連携をとっています。患者様の為にスタッフが円滑に業務を遂行できるように努めることが当部署の役割です。しかしながら、忙しい日々の中でついそのことを忘れてしまうこともあります。そんな時にフィロソフィは様々なことを思い起こさせてくれます。一人ひとりが自身の行動や発言を振り返り、見つめ直す、大切な機会を与えてくれています。

奄美病院 事務部 総務課 川上 あゆみ



「常に明るく前向きに」



日々の生活や仕事の中で、辛く苦しいことというのはどうしてもついて回ってしまうものかと思います。私自身、暗い感情を持ってしまい、下を向いてしまうこともあります。

ですが、そんな時にはフィロソフィの29項目を思い出すようにしています。ネガティブな感情を抱えたり、表に出したりせず、そんな時ほど周りの人達に明るく振る舞い、前向きに行動すること。そうすれば現状がより良くなっていると信じ、これからも努力を重ねていきたいです。

奄美病院 事務部 総務課 渡 大輝

冊子抜粋 第29項 常に明るく前向きに

どんな逆境にあっても、どんなに辛くても、常に明るく前向きな気持ちで理想を掲げ、希望を持ち続けながら一生懸命努力を重ねてきた結果が、慈愛会の今日を創ったのです。

人生は素晴らしい、希望に満ちています。常に「私には素晴らしい人生が開かれている」と思い続けることが大切です。そのことを信じ、誰にも負けないような努力を重ねていけば、必ず素晴らしい未来が待っています。決して不平不満を言ったり、暗くうつろいような気持ちを持ったり、ましてや人を恨んだり、憎んだり、妬んだりしてはいけません。そういう思いを持つことで自分が人生を暗くするからです。

非常に単純なことですが、自分の未来に希望を抱いて明るく前向きに行動していくことが、仕事や人生をより良くするための第一条件なのです。

在宅医療

リレーエッセー

13

イルカのように寄り添う訪問看護



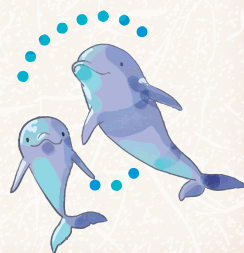
訪問看護ステーションイルカ 所長 富地 幸代

奄美病院へ就職し3度目の年女を迎えます。人生の節目節目を慈愛会と共に歩んできました。去年は病院勤務から訪問看護ステーションイルカへ異動となり、早くも1年が過ぎようとしています。これまで培ってきた精神科看護の経験を活かし、住み慣れた居場所で過ごしたいという利用者にとって、訪問看護がイルカのように寄り添い支援できる存在であれば、と日々奮闘しています。

精神科訪問看護は、利用者がそれを必要とするか…が出発点となります。私たちが利用者を受け入れるように、私たちも利用者から受け入れられなければなりません。信頼関係が最も必要とされます。家族を含め人間関係を構築しながら、地域包括ケアシステムに沿って、利用者、家族、病院、相談員、事業所、行政と連携を図り、必要なケアや支援を提供することが求められます。

2024年2月末に受け持った利用者(86歳)のエピソードです。初めは訪問看護を拒否なさっていたのですが、イルカの名刺をお渡しすると、妻から「イルカちゃん、可愛いからイルカちゃんて呼ぼうね」との一声。事業所名の親しみやすさから、私たちの訪問看護を受け入れてくださいました。今後、関係構築を図りながら必要なケアや支援を提供していきたいと思っています。

「いってきまーす」「いってらっしゃい」「ただいま～」「おかえりなさい」と、今日もイルカのスタッフ皆の元気な声が響いています。この温かい雰囲気が利用者さんやご家族の支えに繋がっているに違いない、そう信じています。



(省略)

編集後記

新年度が始まり、プロフェッショナル編集委員会の担当も2年目になります。

初めて会報誌を読んだ時はコロナの影響もあり掲載写真はマスク姿が多かったのですが、徐々に皆さんの素顔の掲載写真が増えてきて更にプロフェッショナルの発行が楽しみになってきました。

そんな中で谷山病院でもシマ唄歌手の指宿桃子さんによるコンサートが開かれ、多くの患者様、職員を楽しませていただきました。このようなコンサートが開催出来るようになった事にも感動しました。これからはさらに各施設での催しも開催されると思います。プロフェッショナルを通して、多くの思い出を皆さんに発信出来るよう取り組んで参ります。

谷山病院 事務部 静 幸子

Professional^{達人}

慈愛会報 [プロフェッショナル]

2024年4月 Vol.34

発行：公益財団法人慈愛会

編集：Professional 編集委員会

事務局：慈愛会 企画部 経営企画室



公益財団法人 慈愛会
<https://www.jiaikai.or.jp/>



慈愛会
公式Facebook